



514

特254

789

銀行新總裁

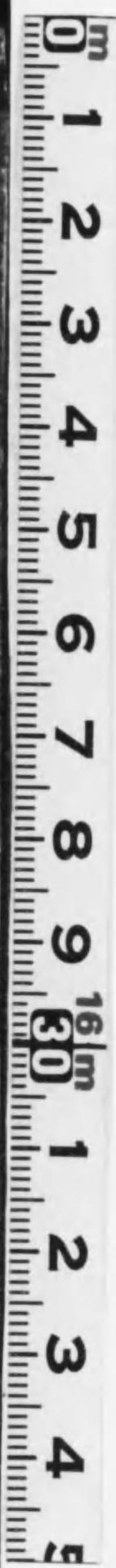
池田成彬

縱橫談

青年訓!!
修養の書

拾錢

刊社トツレフンパ京東



始



特 254
789

日銀新總裁

池田成彬縱橫談

|| 政治經濟研究會編 ||



池田氏の風格 突如たる日銀總裁の更迭……池田氏起用の
意義……革新的な池田氏……日銀の機能……大磯の別荘にて
……日銀・興銀の協力急務



◎ 池田成彬論……………(一七)

現代の實業界……財界の異彩……得難き人物……高潔なる人格……卓抜なる識見……非凡なる手腕……池田氏の生ひ立ち

◎ 縦横談 その一……………(一八)

健康法……宗教・信念……近頃の青年……歴史を讀め……教育論……サラリーマンに與ふ

◎ 縦横談 その二……………(一九)

教訓しない主義……批評は當にならぬ……嘘をつくな、難局を引受けよ……頼山陽が好きだ……大久保甲東の偉さ……銀行會社員の心構

はしがき

池田成彬氏は世の多くの人の様に自己喧傳はやらない。演説は嫌ひで、手形交換所の理事長と云ふ投目の時でも、極く簡單のものしか發表せず、其他は多く記者がその談話を聽いて記述したものである。そこに氏の人格の一端を窺知する事も出来るであらう。

そんな次第で、編者は此際同氏の事をあれこれと、批評や噂を書く事は、禮を失するの嫌があるから遠慮をするが、幸に手元に材料もあるので、表記の様な題下にまとめてみた。讀者に見える以上は、一人でも多くの人に讀まれ、多少とも池田氏の人物を傳へるあれば幸甚の至りである。

尙、池田氏は提灯持の記事は大嫌ひだから、筆者は池田成彬論では是々非々の立場から思ひ出づるまゝに論じて見たから、此點は何人にも御諒承を願つて置きたい。筆端の走り過ぎた

所、意の足らざる部分、真相に觸れぬ所もあると考へるが、何れも御手軟かに御批判あらん事を望んで置く。

四

突如たる日銀總裁の更迭

池田氏は去年四月、三井合名を引退した計りであつて、大磯に宿痾の膽石病を養ふてゐるのだから、よもや今頃、日本銀行總裁になるとは、何人も豫想せなかつたのである。

尤も、林内閣の成立に際して、池田氏の藏相就任説はあるにはあつたか、世人はどの點まで之を眞實に考へたかは解らない。筆者も去る一月の二十六、七、八日頃三井銀行へ少し調べものがあるので、材料を借りに行つて、應接室で調べてみると、社の人材を屈けてくれたついでに、一言二言の雑談をした。丁度宇垣内閣の流産になる直前で、不安の空氣が漲つてゐる時であるから、自分は室内で調べ物をしてゐても、氣が氣でなく、社員の方に、「どうです内閣の情報はありますか」

と訊いたら、その方は答へて曰く、

「別ありませんね、今號外であつたから見たら、何か一寸名の解らん團體の號外で真相は解りません」

と答へて、變な笑ひ方をしてゐた。自分は少し餘裕があれば、三井の社員の方と種々と雑談してもよいのだが、少し急ぐ事なので、そのままに別れた。たゞ後になつてから、友人に、

「今日は少し調べものゝ用件で三井に行つたが、あそこの社の人々とも雑談の機會もあつたいや、それも、少し三井の連中を揶揄してやればよかつたね」

と云ふて、尙も語をついだ。

「それは、内閣のニュースの話の序でだから、宇垣内閣が流産して、軍部の内閣が出来たら、あなたの方の池田さんは、國本社の理事で、軍部張ですから、さし當り池田さんは藏相でしょうね、と切り出せばよかつたが、惜しい事には、一寸氣がせいで、無駄話の機會がなかつたと語つた。」

だが、之れはほんの、一片の座談で、まさか池田さんが、軍部内閣の藏相とは考へてゐなか

五

つた。殊に三井は財閥の筆頭格だから、軍部の革新派からは云々されてゐると思はれるので、相一致するとは考へ及ばなかつたのである。

勿論一面には、池田氏は各方面に接觸して、殊に軍人の間にも相當の交際があるといはれる。未だ高橋藏相が在職中であつたが、次期藏相の候補と云ふのが、ある經濟雜誌に書かれた事がある。その候補者には、曰く、馬場、池田、結城、深井、市來といふ名前であつた。

そして池田さんの分はどう書いてゐたかといふと、

「たゞこの中で特筆したいのは三井合名の理事池田成彬氏であらう——昭和十一年二月號で二・二六事件直前である——池田成彬氏が國本社の理事である事などは問題とするに足りないが氏の最近に於ける軍部との接觸、軍部革新派との提携は見逃がしはてならぬ。某國問題に關する軍部と三井の關係は着々と實行に移されて居る。斯くの如くして三井家の家憲にも拘らず、池田成彬氏が革進的内閣の大藏大臣になる可能性があると云ふ人が多いことは事實だ。併しそう云ふ内閣が岡田内閣の後に來るかどうか疑問である以上、池田藏相説は憶説に過ぎぬと云はれるかも知れぬ。」

と、こう書いてゐた。今度、林内閣の組閣では、此の噂が實際的にあらはれて、池田氏の藏相就任説が、紙上にもあらはれたのは、世人の目に新しい事である。所が、藏相には世人の豫想のやうにならなかつたが、今度、日本銀行總裁となり、日本の金融權を握り、同郷の友人、結城豊太郎氏を援けて、非常時財界を切り廻はそうとの決心であるから、國民の衝動を受けるのは無理もあるまい。先には樞密顧問官の候補にも上げられた。こんな記事を見ると、池田氏はどうしても優れた人でまだく世間では遊ばして置く事は出來ないと見える。今度の日銀總裁となつたのは、同郷の友人結城藏相の切なる懇望もだしがたく就任したものと見るのが真相で、その世評は次の通りである。

池田氏起用の意義

日銀總裁の更迭は突如として起つたが、深井日銀總裁が辭表を提出したのは、去る一月二十三日廣田前内閣總辭職の日のことで、勅選議員に推舉されたとき、既に辭職の決意を固めてゐ

たものゝやうである。結城蔵相としては財政經濟の現情勢に鑑み、その後任について慎重考慮をめぐらした結果、前三井合名常務理事池田成彬氏の驅起を求め、以外に人なしとして、八日池田氏に交渉し大體內諾を得たので、深井氏の辭表を容れるに決定し、九日正式更迭を見る段取となつたわけである。

結城蔵相が既に昨年四月財界における公私一切の地位を捨て、引退を聲明した池田成彬氏を特に起用するに至つたことは財界を擧げて意外の感にうたれてゐる。然しながら結城蔵相が敢て池田氏の驅起を促すに至つた事情こそ、わが國財政經濟が正に當面しつゝある異常なる難局を物語るものであつて、そこに重大なる時代的意義が潜んでゐる。

即ち最近における國際諸情勢の緊迫化とその間に介在しつゝ既に滿洲事變以來スタートを切つたわが大陸政策遂行の必要とは、今や好むと好まざるとに拘らずわが財政經濟の一切の部門において「準戰時」的體制への最も効果的な編成替を強要しつゝあるが、他面において國內生産力の弱少性と國民生活における救ひ難き不均衡とはかゝる目的の遂行を異常に困難ならしめてゐる。二・二六事件後における非常時意識の昂揚に乗つた馬場財政が結局において幾多の摩

擦と矛盾とを暴露して遂に破綻を餘儀なくされたのは、端的にその間の事情を物語るものであつて、その意味において時代は既に強力にして實行的な人物の登場を待望してゐる。

池田氏は三井財閥經營の最も困難なる時代に處して、その卓越した手腕と強き意力において定評があると共に、引退後の今日もなほ財界に對する壓力は隱然たるものがあり、しかも時代の動向に對して最も透徹した認識を有し、その點において軍部方面における革新的分子との間には早くから一脈氣息の通するものがあると云はれ、この方面で最近池田氏起用説の高まりつゝあつたのは紛れもない事實である。結城蔵相が特に池田氏の出馬を懇請した所以も要するに前述の如き事情を考慮しての上であり、池田氏が病軀をもつて後任總裁に就任を受諾するとすれば、そこに尋常ならざる決意と結城蔵相を授けて今日の難局を打開すべき十分なる革新的方策を藏してゐるものと推測されてゐる。

革新的な池田氏

金融界としては非常時財政の影響を受けて通貨統制問題は愈々困難を加へ、物價騰貴、爲替低落即ち悪性インフレ發現の兆は漸く潜行状態から表面化せんとする情勢にあり、今や中央銀行としての日本銀行の使命は益々重大性を加へて來たとき、通貨問題につき理論的にも經濟的にも財界第一の權威者である深井氏の勇退を見たことは實に遺憾であるが、その後任として池田氏の就任は得難い後任者を得たものと謂ふべく誠に結構である。

氏は一般には正統派的自由主義の權化であるかの如く觀られてゐるが、最近氏の思想的內容には可成りの變化が起つてゐる様で、その點所謂時局認識の點に於て、相當徹底してゐるもの如く、従つて目下の重大懸案となつてゐる金融統制問題に就ても、確固たる意見を持してゐる様である。又氏は意志の人、實行の人として知られてゐるから、氏の日銀總裁就任は結城蔵相のよき相談相手として手腕を振ふことであらう。

然し氏は長らく三井銀行にあり、金融界及び産業界の實情に通曉してゐるから、實情と甚だしく懸け離れた政策をとることはあるまい。従つて漸進的革新政策を遂行せんとする現内閣のもとに於ける日銀總裁として、池田氏は好箇の適材と謂ふ可く、又結城氏と池田氏とは從來特

殊關係があり、從來兎角缺けてゐた、大藏省對日銀間の聯携が密接となり、兩者の協調によつて通貨政策、公債政策、金融政策などに於ても財界の實情に即しつゝ相當新味を出すものと期待してゐる。

日銀の機能

最近の如く政治が經濟に先行する時局にあつては、金融もまた馬場前藏相の所謂準戰時財政體制の一翼として、金融それ自體の世界にのみ限局されることを許さないのであるが、結城蔵相はこの兩者の關係に對しても、根本的な修正を企て國防計畫その他所謂革新政治の動向をわが國現下の生産力の段階に沿つてその軌道に乗せて行く點にあるとなし、金融も亦生産力擴充の方向に沿つて再調整されねばならぬ段階に到達してゐるとの見地から、金融の積極的役割に主眼を置いてゐるのであつて、日銀に課せられた今日の問題は國防計畫の遂行と生産力の増大とを併行して進めようとする新たな政治的目的に、その出發點を置くものと見なければならぬ

111
いであらう。かくて日銀の機能には重大なる轉換斯が到來して來たものと見るべく、日銀總裁としての池田成彬氏の役割は、この意味において金融ならびに産業界から絶大の注目をひいてゐるのである。

大磯の別荘にて（池田氏談）

三井の池田か、池田の三井かとまで言はれた氏は、昨年四月一杯を以て三井合名筆頭理事の名とともに、四十一年にわたる三井生活と別れ、同時に日銀參與、經濟聯盟役員その他三十餘の關係要職から引退。大磯の別荘に一介の浪人としての生活を送つてゐたのが、八日結城新藏相の突然の訪問で日銀總裁の交渉を受けた。就任の如何は九日返事をする事になつてゐるが、財界から姿を消して十ヶ月目に金融大御所のイスを振られた八日夜、池田氏は麻布永坂の自邸で珍しく和服に白足袋姿「受けるか受けないか分りませんよ」と斷つて、飛躍一步手前の引退生活を語る。

「深井さんが辭表を出してをられたことは承知してゐましたが、今日發表になるのは少し約束がちがふのですがネ……」
と靜かに笑つて

「何しろ私は財界から完全にひつこんだ男でせう、その間に一度だつて私は宴會に出たことさへありませんよ、殆ど大磯にゐて長男のやつてゐる農園の花ばかりを眺めてゐました、その男が突然中央に出てくるといふことになれば、それ相應の理由がなければかしいこととせう、今度も實は三井で永年使つてゐた男の告別式があるので、ちよつと東京へ出てきたわけですが……」

令息の農園に咲いたといふ紅薔薇が豪華な電氣スタンドに美しく映えてゐる應接室――

「大磯では本ばかり読んでゐました、經濟の本ですか？ いゝえ、四十一年も銀行生活をやつてゐれば数字の本は飽きますよ、何錢何厘何毛といふのは面白くごわせんな……讀んだのは英國政治家の本と歴史です、今もロイド・ジョージの世界大戰に關する大著を讀んでゐますが、愉快です、ですからこの頃の金利がどうなつてゐるか、株の値段も知りません」

この項大いに疑問もある。この財界の大立物を三年越しに悩ませてゐる、膽石については

「いや、實に痛いものです、まづ痛みの極致でせうね……そもそも膽石といふのは一割位が結石の出来るもので、私のは石でない方なのです、この正月も起りましたが、幾分軽くなつたやうですね……日銀總裁と膽石の関係ですか？　ハハハ……醫者に聞けば矢張りいかんといふでせうね、相談もしませんが……」

七十一には見えない血色の良い顔で、池田さんは目の前の日銀總裁の椅子を膽石漫談にまぎらせた。

日銀、興銀の協力急務（池田氏談）

池田氏の日銀總裁就任はもはや決定的なことであるから、八日の結城藏相との會見後試みた同氏の左の時局談は、日銀の政策といふよりは寧ろ結城、池田兩氏のコンビによる今後の我が財政、經濟、金融政策の具體的動向を示唆するものとして注目し値する。

林内閣の政綱をみるとやはり抽象的のものが、産業政策に關しては大分結城君邊りの考へが出てゐるやうだ。あれでみると電力の民有國營案など悪いといふことになるのかね、電力の民有國營案が駄目となると結局合同といふことにならう、尤も五大電力を一度に合同せしめることは早急には實現出来ぬかも知れぬ。

結城君の車中談については、新聞紙所報によると全體として當を得てゐると思ふ、國內生産力の増加、豫算と生産力の調整問題は現下の最重要問題で、軍部の説明を聞くと生産力は十分だといつてゐる。しかし吾々は材料がないから確かな所は判らない、公債消化は公債に對する信用が失はれない限り心配はない、例へば三井生命の如き一ヶ月に二百五十萬圓の投資餘力が増加してゐるといふから、この一例をみても生命保險を動員するだけでもその消化にかなり効果があると思ふ、勿論そのためには生保の契約者に對する配當率を下げねばならぬ、馬場君の政策ではやゝもすると公債に對する信用力が鈍つて來たかの感じを與へたやうだ。今後は大藏當局は此點に十分の注意を拂はねばならないと思ふ。

金利は恐らくこれより下るまいし、私もこの程度以上に下げるのはよくないと考へる。しか

し郵便貯金の利子は銀行預金の利子との振合ひ及びその増加をはかる上から既定方針通り下げることが望ましい。物價對策、生産力擴充のため、興銀をして事業金融に益す邁進させると、そのために興銀の背後にあつて日銀が新資金を豊富に供給すべしといふ結城君の意見は極めて妥當だ。

これについては昭和八年六月に經濟聯盟で金融制度改革案に関する建議案を行つたとき一項目として入れてあつたものである、當時申田君、郷君などと協議してこしらへたもので土方君（當時の日銀總裁）は強ひて反對でなかつた様に思ふ。方法は要するに興銀債券を優遇する趣旨だつた。現在の情勢では廣義國防の見地から生産力の擴充に努めなければならぬが、その爲には普通銀行ではどうしてもいけないから、興銀の動員が必要となるのだ、この外預金部資金をも融通するといふは色々意見もあらうがこれも一の考へ方であらう。最後に結城君も財界一般の興望を負つて藏相になつたことだし、同君が失敗するともう財界に入る人も却々見當らないから、財界も今後同君を支援して國家のためその有終の美を濟さしめるやうにして欲しいものである。

池田成彬論

明治から大正にかけて、日本の經濟界には巨人澁澤榮一翁が、リーダーとして全日本を支配してゐた。大隈侯と共に國際的巨人でもあつた。だが、その後、幾多の實業界の有名人が排出したが、澁澤翁の如くに諸將を統率する人は出ない。もうその必要もないのかも知れない。又翁の如き偉人は、百年に一人、千年に二人と云ふ人であつたかも知れない。來る時代も來る時代も、澁澤翁の如き人が實業界に君臨することが、必要であるといふ事は出來ない。

現代に於ける我が實業界としては、明治、大正の時代に比較して、寂莫の感がある。此の時代には、前記の澁澤翁を首腦として、中野武營、大倉喜八郎、安田善次郎、森村市左衛門、などと云ふ微賤から身を起した實業界の豊太閤が並んでゐたのである。

現代ではどうかと云ふと、そういう巨人は見當らない。根津嘉一郎氏は老來益々盛んではあるが、まだ、後年の大倉、安田に比する譯には行くまい。郷誠之助男の勢力は大は大であるが、澁澤翁の如き力はない。藤原銀次郎、小林一三、野間清治と云ふ様な、やり手は揃つてゐるが、之もまだ明治時代の巨人に追いつく迄には行かない。團男の如き優れた人物もない今日、少なくとも物足らぬ感じのするのは筆者一人ではあるまい。

此間にあつて、最も異彩のある人物は誰れかといふたならば、我が池田氏の如きはその雄なる一人ではあるまいか。

彼、池田氏は、財産に於いて必ずしも大ではない。彼の財産は四百萬圓あるのか、六百萬圓あるのか知らぬが、團男の如くに一千萬圓も二千萬圓も持つてゐるとはきかない。それは三井銀行の常務時代から、半期に、三十萬圓なり、四十萬圓なりの賞與を貰ふて、年收が百萬圓以上を越した事があるかも知れないが、彼は貯財に努力してゐることは聞かない。彼の勢力のあるのは、三井の背景と、彼個人の人格とである。

最近に於いて、三井の産んだ人物は、團琢磨である。彼は、十六歳で米國に留學したのであ

るから、外國語も出來、人柄も立派で、野依秀市氏の言葉をかりて言へば、何々侯爵でも通る上品さがあつた。國際的に日本の實業家を代表するには、めつたに見出せない人物であつた。

その前に、三井銀行には中上川彦次郎と云ふ傑物がゐた。中上川は、池田氏から見れば岳父であるが、三十八歳の若さで明治三十四年十月に死去したが、彼の功績は今日の三井の基礎を築いたと見る事が出来る。

此のほか三井には、益田孝、早川千吉郎、飯田義一、等々の人物を出したが、益田、中上川、團に次ぐ人物は、何といつても池田成彬であらう。池田と同時代には、米山梅吉もゐる牧田もゐる。有賀、福井の先輩もゐる。安川と云ふ物産のやり手もゐる。

然し、その中で一番に光つてゐるのは池田である。その教養に於いて、その識見に於いて、事業經營に於いても、三井家の改革意見に就ても、他人の追隨する事の出來ないものがある。今度、日銀總裁となつたのも、彼の識見と手腕とを求められたと見るべきである。

彼は人格が極めて高潔である。煙草をのまず、酒も用ゐず、好む所は、大磯の農園に草花を愛し、松籟の下に讀書する事である。それにハーバート大學に紳士教育を受けたのであるか

ら、外國語も出来る。今度は大磯で、ロイド・ジョージの書いた「歐洲大戦の回顧録」を讀んで、「面白い」と云ふてゐるのだから、たゞの隠居さんとは譯が違ふといふものだ。

先日、僕の友人（操觚界にも居た）に逢ふた時、談偶々、池田氏の事に及んだが、彼曰く、

「先日、一寸池田さんに御目にかゝりたい事があつて、大磯の別邸を尋ねた、所が心よく引見してくれた。」

と、こゝろいふから、私は「元氣はどうかね」、「識見はどうだね」ときいたら、彼語を次いで曰く、

「病氣といふても、今は大した事はない。それに頭はよいし、よく勉強してゐるし、また各方面の情報などもよく知つてゐるし、とにかく、現代では池田さんのような人はあまりないね、僕のようなものにも、良く話してくれ、歸途には玄關迄送つてくれるのだから、まあ感心なものさ」

こゝろ語つてゐた。

池田氏を直接でも間接でも、知つてゐる人は、大概池田氏の優れた事を認めてゐるようである。

池田氏は、米澤の人であるが、同郷人はよく世話してくれたとの事だ、一女事務員迄も世話してくれたとの事だから、感心なものである。所が先日、ある米澤人が、

「池田さんも前にはよく同郷人を世話してくれたが、此頃は大磯に居られるし、第一線から退かれたので、仲々昔のように世話はしてくれんし、そゝいふ立場でなくなつたようだとこぼしてゐた。」

だが、如何に同郷人可愛さでも、池田さんとして、年も年であれば、位置も位置である。そう周旋屋のように人の世話計りも出来まい。それに、明治や大正の時代と違つて、就職難時代で、皆縁故關係よりは試験制度といふ事になつたから、昔のように名のある人の紹介ならば、どん／＼はひれた時代でなくなつたのである。これは池田さんが悪いのでなくて、求める方に認識不足があるのではあるまいか。

まあ、こんな餘談はどうでも、とにかく同郷人にも盡された事は實際である。

それから、池田さんをシャイロツク式の金融業者のように云ふ人もある。臺灣銀行のコール七千萬圓も一週間以内に引上げて、日本恐慌の原因を作つて、その上に若槻内閣まで潰したと、だが、一池田が、民間財閥の銀行の番頭が、一國の内閣を動かすとすれば、それは偉い事ではないか。

だが、實際は臺灣コール引上げなんと云ふ事も、商業上、金融業者としては當然の業務を行ふたのであつて、どの點迄池田さんの政策を攻撃したらよいか限界はつかない。だが、池田さんは銀行家としては、一流の手腕ある人で、往年のユダヤ人シャイロツクも及ばない力備があるのかも知れない。只、シャイロツクと異なる所は、彼は人道をわきまへず、池田氏は商道を冷靜に行ふと云ふ丈けの違いである。

三井銀行の資本も、池田氏が常務となる頃は、まだ五百萬圓かそこそこのものであつたのが、彼が二十年間の努力で、一億圓の資本を擁し、年々一千萬圓にも達する利益をあげたのであるから、銀行業者としても、平凡な人間ではない。

それ計りでなく、常に讀書し世界の大事を知り、財閥の方向に對して注意し、五・一五事件

後には三井の方向轉回に關しても、種々なる方策を取つた。

その主なるものを挙げれば、

- 一、三井八郎右衛門は養子高公氏に合名會社の社長を讓つて引退し、銀行、物産、倉庫、鑛山等の社長より、三井は一族後退すること。
 - 二、東洋レーヨン、王子製紙、東洋高壓工業、三池窒素等の株式の一部公開。
 - 三、三千萬圓の三井報恩會を設立して米山梅吉氏をその理事長たらしむ。
 - 四、中商工業の怨府となつてゐる物産の常務安川雄之助、取締役小林正直氏の強制辭任。等であつて、世間では何んの彼のと云ふけれ共、之れ丈けの英斷は池田ならでは出來まい。更に第二次の轉向が行はれた。それは停年制と、三井の轉向、池田の辭任等である。その重役停年制といふのは、
- 一、筆頭常務參與理事團琢磨六十五歳。
 - 二、常務理事及理事は六十歳、但し業務上特に必要な場合には期間を限つて留任せしむ。
 - 三、使用人の行停年は五十五歳とす。但し業務上必要な場合は前同様期間を設けて留任せし

四、右停年制は、銀行、物産、鑛山、東神倉庫、三井信託、三井生命の六社にも適用すると、但し部外重役には適用せず。

これによつて、池田氏以下代表的巨額二十數名が退陣した。これは三井財閥としては、外部的にはファッショの風當りを微弱にするため、又一方内部的には人事の新陳代謝によつて、清新の氣を注入する事とした。

以上の大改革も、多くは池田氏の劃策する所であつて、何れを見ても容易の斷行ではない。世間では、三井は巨億の富あり、三千萬圓は大なる苦痛を三井に與へざるべしと、然り三井はその財力充實して巨大である。然し如何に三井を以つてしても、三千萬圓の寄附は相當にこたへる事と信ずる。自らの商行爲に依つて得た金を國家の前に投げ出す事は、慥かに見上げた行動で、三井の富めるが故に、感謝の念を薄くするものあれば、こは三井の勞力と金とに對して甚だ失禮の事である。

如何なる家にも、何人の時代でも、いらぬ金を持つ人は一人もなく、又、何等かの勞力犠牲

なしには、一文も得る事は出來ないものである。三井と雖も亦然りである。國民は此の富豪の心を酌む事をせなかつたならば、今後、國家の爲めに巨財を投ずるものを抑止する事となる。島國根性を起さずに、富豪の美譽は飽く迄稱讚するにやぶさかであつてはならぬ。

尙、池田氏の略歴は人の多く知る所であるが、參考迄にその大略を記述して置けば、次の如くである。

池田成彬氏、慶應三年七月米澤市に生る。父は米澤藩主上杉家の家老である。上杉家は謙信の後で、景勝の時と關ヶ原の戦に石田三成に組した爲めに、會津百二十萬石から米澤の三十萬石に左遷されたものである。米澤は雪深く、數尺以上に積り、寒氣烈しく、農産物も少なく、よくない土地であつた。中途上杉鷹山等が出て、大に産業を起したが故に、上杉家は富んだのであるが、元來は不耗の地である。池田氏の家は、米澤藩の上級武士に屬してゐた。世は家老の家柄としてある。然し池田氏は家老の家柄でないと申されるが、家老の職であつてもなくても、重なる武士のよい家柄であつた事は事實である。

池田氏の父君は成章と云ふ人で、明治年間には、山形縣にゐて、銀行の頭頭をしたり、地方

開發に盡瘁した人である。又明治三十九年であつたか、前記「上杉鷹山公世紀」なる浩翰の本をあらはして、文筆、學問にも秀でた、人格の人であつた。大正初めに、七十餘歳で、東京の池田氏邸に逝去された。

母君も立派な婦人であつたが、此人は池田氏が未だ慶應義塾に學んでゐる頃、米澤で他界をされた。

弟には池田宏平と云ふ人があつて、此の人は日本海々戦で、日本士官の模範と謳はれる立派な戦死を遂げた人で、「此の一戦」にも書かれ、廣く人々の知る所である。

父、成章も、一地方人として過したようであるが、明治の初めには、岩倉公にも知られ、澁澤榮一翁とも厚知の間柄であつた。又、川上操六大将とも、交際があつたといはれるから、單なる田舎の一有力家と看做べきでもない。とにかく立派な人であつたらしく、氏の家庭教育には充分に注意した。これが今日の池田氏を成生せしめるに主として力となつた。

池田氏は十八歳、明治十七年迄米澤で勉學、當時の流行であつた福澤翁の「學問のすゝめ」をよみ、早く青雲の志を立てたといはれる。十八歳で、慶應義塾に學び、(明治十七年)二十一

年に卒業、二十二年渡米、ハーバート大學に入學、二十六年歸朝、時事新報記者となつたが、ほんの僅か二三ヶ月にも足らぬ位で、二十八年には中上川彦次郎に懇望されて、三井銀行に入り、四十二年常務取締役となつた、時に年齢四十三歳、若い重役であつた。かくて銀行の資本を五百萬圓から二千萬圓、一億圓と増資し、一ケ年の収益一千萬圓に及ぶ迄發展せしめたのは、前にも記した通りで、將に中上川に次ぐ銀行の功勞者である。昭和七年三井合名の理事長團琢磨男なき後に、合名の理事となり、三井財閥の爲めに、種々なる工作をなし、新しき時代に適合せしめ、又國家の爲めになつた事は前記の通りである。昨年四月、停年制と病氣等の爲めに隠退して、大磯に悠々讀書して靜養す、今回、同郷米澤藩の友人結城豊太郎氏の懇請を入れて、日本銀行總裁となり、大に國民から期待されてゐる。

其他、池田氏の事に關して語るのは、種々あるが、紙數に限りもあるし、本冊子の眼目は池田氏の縦横談にあるから、此の邊で筆をとめて置く。

縦横談 その一

三月以來盲腸炎で寝て居られた池田成彬氏も、すっかり元氣恢復、内閣審議會などにも活躍されてゐる。記者は三井銀行在任中種々御世話になつて居るので、御禮旁々全快の御祝ひにと三井合名に同氏を訪問した。「ヤー」と應接室に入られた池田さんの顔は、この正月頃よりは血色もよく、元氣のやうに見受けられた。

「忙がしいので、新聞雑誌の方は皆お断りして居るのだが、君は銀行以來だし……」と記者のために、種々有益な教訓をお話し下さつた。(増田義彦)

◎健康法は何もやらぬ

記者「大分、長いこと御病氣でしたが」

池田「昨年の九月に大磯で盲腸炎を發病して、その時は内科的に治したのですが、それが又この三月に再發したのです。今度は手術して取つてしまつたから、もう大丈夫——」

記者「いつもは大變御丈夫のやうですが」

池田「めつたに病氣したことはありません。たまたに風邪を一寸ひく位なものです」

記者「何か健康法でも？」

池田「いや、私は健康法と云つて絶対にやりません。色々な藥だとか、もみ療治だとか、人から薦められますが、そう云つたものは絶対にやりません。病氣になつたら、自分の信頼する醫者の云ふことをきくだけで平生は何もやりません。

もとは運動——歩くことがすきで、銀行の行き歸りなど、人力車を後に従へて歩いたりしたのですが、自動車になつてからはそれも出来ません。一度、自動車に馬場先門へ行つて待つて居ると云つて、銀行から歩いて行つたことがあります。馬鹿々々しくてこれも出来ませんし、今は運動もやりません。

病氣になつて醫者にかゝるのでは何にもならん、平生健康法をやつて病氣にならんやうにしなればいけないと云ふ人もあるが、私は醫者萬能とは思はないけれども、今日のところ、健康問題に關しては醫者が一番進歩して居ると思ふ。勿論醫者も間違へることもあるし、學説も變ることがあるが、今の時代では、兎に角醫者が一番進んでゐる。病氣になつたら醫者に一切託する。駄目ならしかたがないとあきらめる。健康法と名のつくものは一切やつてゐません。』

科學的な、池田さんの眞面目がうかゞはれて面白い。ところで、成程所謂健康法と名のつくものはやつてゐられないかも知れないが、池田さんは有名な養生家であることを忘れてはならない。

◎宗教・信念

記者「お話のやうですと、宗教なども信仰して居られないでせうね」

池田「宗教は何かと云はれると、無宗教だと答へる他ないが、私の考へはどちらかと云ふと儒教が主になつてゐますね。」

これは小さい時から漢學をやつたのがもとになつてゐるので、根本的に信じない所もあるにはありますが、考へ方は儒教に一番近いと思ひます。併し宗教はと訊かれると、無宗教と云ふより他ありませんね」

記者「世間では池田さんは非常に信念の強い方のやうに見て居りますが……」

池田「サーネ。まあ色々調査して見、考へて見ていゝと信じたら、やり通す。これが根本だが……」

記者「そのやり通す力はどうしたら養へるのでせうか」

「ソーネエ」と笑つて答へられない。信念とかなんとかえらさうなことを云はない所が池田さんたる所以だ。だが何か一つ教訓でも伺ひたいものと話題をかへる。

◎近頃の青年

記者「近頃の青年をどうお考へになりますか」

池田「今の青年は利口になつてゐますよ。大變進んでゐる。我々の時とは全く違ふ。」

これは我々が受けた教育が非常に不完全なものだつた爲で、私など小學校では読み書き、數學のごく簡單なものしか教はらず、それから漢學塾に入りましたが、そこでは漢書を讀むだけ、それから英學塾に入つて英語を習つて米國の大學に行つてしまつたのですから、極めて不完全な基礎の上に、いきなり大學の専門的な教育を受けたので、今日のやうな組織だつた教育をやつてゐません。だから今日の青年は、昔から見ればずつと進んで居ます」

◎歴史を讀め

池田「たゞキャラクター（人格）は教育ばかりでは出来ません。その爲には歴史などを讀むのが一番よいと思ひます。國體の觀念も頭に入つて來ますし、偉い人、悪い人の兩側の傳記、實例から得る所が多いのです。

倫理などで、こうしなければならぬ、あゝしなければならぬと云つて詰め込むよりは、歴史のやうなものを讀んで、自然に自分でいゝ悪いが分つて行く方が本當だと思ふ。

又尊敬してゐる人から生きた教訓を聞くことも大切です。悪いことをしてはいけないと、倫

理でたゞ抽象的に教へられたのでは後に残らないが、尊敬してゐる人から、事實に即して、こうだ、あゝだと適切な教へを受けるのは非常に爲になり、後から省みても大いに益する所がある。」

◎教育論

記者「池田さんはお子さんを皆外國で、教育されたやうに伺つて居りますが、日本の教育と比較して、どんな點が異つて居りませうか。」

池田「次男、三男を英國の大學にやりましたが、英國では、大學の前に豫備校があつて、そこには全校で二百人足らずして校長と多數の先生が居て教場ばかりでなく、學校以外の行動にも注意して、目のとゞいた教育をしてくれます。大學へ行つても、生徒の數は大したものではなく、少數の生徒を多數で教育して行く。従つて人格などにも、いゝ教育を與へてゐます。

何百人も集めて、一ペんに講義する日本とはだいぶ違ひます。日本では生徒が多すぎる。先生は生徒の名前を知らないのが、日本の現状でせう。私が米國のハーバート大學に居たのは四

十年前のことですが、その頃の學生の數と、今日の數とは大した違ひがありません。日本では大變な増え方です。劍橋でも牛津でも校舎などはたいして増えて居ません。學校は工場のやうに大きくなるものではないやうです。

私がかつて英國の豫備校の校長に、何故もつと大きくしないのかと尋ねたら、自分は二百人以上は教育できない、だから増やさないので云つて居ました。日本では増えるだけ増やして行く。」

記者「少數の者によい教育を授けるか、多數を大量生産するか、どちらがいいでせう」

池田「日本は皆が學問する國だから、多勢に教育する組織が必要でせう。併し現在の制度を修正する必要があると思ひます。課目の單位を少くして、二十も三十もとらねば、卒業できないと云ふのをやめれば、幾分緩和されるでせう。」

それから、實業界に入る人に對する教育は、もつと若く卒業して世に出るやうに、そして、そう色々な高尚な學問はいらぬから、もつとブラクテイカル（實際的）な教育——そのエッセンスだけをとるやうに改良しなければならぬと思ひます。」

◎サラリーマンに與ふ

記者「學校を出て、銀行會社に入りますと、勉強しなければならぬと思ひながら、まとまつた勉強が出来なくなります。これは我々青年サラリーマンの共通の悩みではないかと思ひますが、如何でせう」

池田「學校を出て、大學院に入り、學者になり、先生になると云ふのではないのですから、銀行、會社に入り、事業にたづさはるのであれば、そうまとまつた學問は必要でないと思ひます。自分の與へられた仕事の上の經驗、勉強に力を入れればよいと思ひます。」

深淵な學理は、あれば越したことはないでせうが、實業界では必要ないと思ひます。

よく銀行、會社に入つて、どう云ふ點を心掛けたらいいでせうなどと聞く人があるやうだが、ベストを盡すと云ふ以外にない。何もサラリーマンだからどうと云ふことはない。與へられた仕事に全力をつくす、平凡だが、これが眞理だと思ふ」

こんな話をうかゞつてゐる間に、小使が訪問客の名刺を持って來た。御忙しい中を餘り御邪

三六
魔してはと思ひ、まだく伺ひたい話題は澤山あつたが、この邊で失禮した。「實業の日本」より

縦横談 その二

三井合名常務理事池田成彬氏は、高潔なる志操人格、卓越せる識見手腕、共に並び稱せらるる我國財界巨頭の一人であります。本篇は從來殆ど雑誌に記事を發表したことなき氏が、特に本誌の爲めに時間を割き、記者の質問に答へつゝ、その信念を語られた得難き縦横談であります。(キング記者)

◎教訓しない主義

記者 お忙しいところを恐入りますが、今日は、先生の御體驗の一部を伺はせて頂きたいと思ひまして参りました。先生はこれまで新聞や雑誌の方へは殆どお話をお出しになりませんやうでしたね。

池田 え、私は大體過去のことをいふことがあまり好きぢやない、それに人に教へるとか教訓するとかいふことも非常に不得手でしてね。

記者 それは何ういふ理由ですか。

池田 第一、私は人に教訓などする資格がないと自分で思つてゐる。今日の青年はなか／＼進歩して居りますからね。

記者 先生はまあそれとして、それでは三井の社風とか、社員心得といったものについてお話を。

池田 三井といつてもいろ／＼あり、銀行には銀行の氣風、物産會社には物産會社の氣風、鑛山會社には鑛山會社の氣風がある。一概に三井の氣風といふのは難しいでせうな。

記者 先生の永く居られた三井銀行で、新しい社員などが入つて來た時、三井は斯ういふとこ

ろであるからといふことなどお話になる……。

池田 さうした話を實はやつたことがないので。私の方へ入つて来る人は、皆専門學校以上、今日の日本の最高教育を受けてゐる。それに非常な嚴選主義で採りますから、學問も人物も皆相當に出来てゐる立派な人と思つてゐます。それに對して我々が教訓がましいことを言つて見たところが何うかと思ふのです。それで私は、さうしたことは一遍も青年に話したことがないので。あまり教訓がましいことを言へば腹の中では笑つて居るでせう。

記者 訓諭をしない重役さんは一寸珍しいですね。つまり紳士として待遇するといふ御趣意なので。三井全體がさうですか。

池田 いや、言つてゐる所もあるかも知れませんが、物産は物産、鑛山は鑛山、銀行は銀行でやつてゐるから、他の事は何とも言へませんが、私が銀行に居つた時は、一切そんな事をやらなかつたのです。

記者 然し、事務上に就いていろ／＼御指導になるでせう。

池田 それは行内へ入つて毎日仕事をしてゐる間に覺えるですね。また係りの者が側にゐてい

ろ／＼注意もするでせう、それはそれで効果もあり必要なことです。がボツと入つて来た者を、二十人も三十人も集めて、一席一場の訓話を與へたところで、どれだけ効能があるかといふ事は、私は頗る疑ふですね。

◎批評は當にならぬ

記者 先生自身は教訓することはお嫌ひとして、お若い時分に、御兩親とか恩師とかいふ方から教訓を受けた事はあるでせう。

池田 それはある。父母なり先生なり始終一緒にゐて、その人の言行を見、その人から教訓を受けるといふことは、大いに効能がある。一席一場の訓話なんかと譯が違ひますからね。

記者 お母さまは早く逝くなられたのですか。

池田 私の二十歳ばかりの時です。その生前にも私は東京に来て居つたりして、あまり母からは教訓といふ程のものを受けなかつたんですが、父は七十三私が四十五の年まで長生きしましたから、始終一緒にゐていろ／＼教訓されました。

記者 上杉家の御家老でいらしたさうで、先生のことを書いたものを見ますと、さういふお家柄で、先生には古武士の風格が残つてゐるとありました。

池田 家老ではありません。あゝしたことは一つ間違つたことが書かれると、それからそれと間違ひが傳はつて困ります。いつかロシアの大使館に招かれて行つた時に、

「初めまして——池田でございます」

と言つたら、大使館の人々が、

「あなたの事はよく知つてゐます」

と言ふのです。

「どうして知つて居られる、お初めて會つたばかりなのに」

と訊くと、××に、何か批評めいたものが出てゐたらしい。あゝいふ人達は、そんな物まで譯して読んでゐると見えて、それで知つてゐるといふのです。そこで、私は、

「あゝいふもので我々を云爲して貰つては困りますよ」

と言つたことです——これはどうも、諸君に向つて、かういふ事を言つちや悪いけれどもね

ハ、、、。

◎嘘を吐くな、難局を引受けよ

記者 武家の方だとすると、お父さまは随分嚴格でいらしたでせう。

池田 ええ。私に對しても嚴重でしたが、父自身も嚴重に育てられたらしいです。よくこんな事を言ひました——父が幼い頃、雨降りで下駄に泥がついて居つた。丁度隣家の前まで來ると茶葉があつたので、その茶葉を取つて下駄を掃除して來たと、家に歸つて話したら、祖母に「茶葉と雖も隣家の物である。それを黙つて取るものぢやない」と言つて叱られたといふ事です。さういふ教育を父は受けて來たのですから、自然私に對しても非常に嚴格でした。

記者 そのお父さまの教訓の中で特に感銘されて居るのは？

池田 「嘘を吐くな」といふこと、「悪い事をするな」といふこと、さういふ事を非常に喧しく言ひました。それから「人間は、容易い事は人に譲つて、難局は自ら進んで引受けなければならぬ」と教へられました。父から受けた教訓は、未だに記憶に残つてゐることが澤山ありま

す。

記者 先生が嘘を言はぬ人だといふ事は、屢々聞きます。

池田 今はさうでないが、銀行に居つた頃は、いろいろな問題で、よく新聞記者に會ひましたが、私はいつも言うたのです。「嘘を言はぬ。その代り話せぬ事は断じて話せない。いゝ加減な嘘を言つて諸君を誤導するやうな事はしない。言ふ時には公然に言ふ、言はぬ時には一切言はぬ。ちやらつぽいを言つて胡魔化すやうな事はしない」さう言うたものです。

◎頼山陽が好きだ

記者 三井には古くから人傑が多いといはれてゐますが……中上川彦次郎さんは偉かつたさうですね。

池田 あの人は私が銀行に入つた當時、専務理事でした。我々使はれた方から申すと、例へば斯ういふ事をしてはどうかと訊いて、『宜しい、やつて見ろ』といへば、後からどんな人が來て水を差しても、断じて動かなかつた。だから使はれる者は大變やりよかつたです。やりか

けて、途中でグラ／＼されて、止めなければならぬのは一番弱りますからね。

記者 園さんは？

池田 台名に居られたので、私は使はれた経験はありませんが、非常に用意周到な人でした。

記者 昔の人物では誰がお好きですか。

池田 頼山陽が子供の時分から好きです。山陽の著書を読んだり、字を見たり、又山陽の事を書いた傳記を読んだり、いろ／＼少年時代からしてゐます。品行など批評の餘地があつたやうですが、併しやつぱり偉いですね。左様どこが偉いかといへば、私はあの人が歴史を書いた見識だと思ひます。それア今日の歴史家から見れば大した物ぢやないかも知れぬけれども、資料の乏しい當時に於て、殊に官権があるぢやなし、全く個人の力で以てあれだけの歴史を書くといふ事は、確かに大出来ですよ。とりわけ、あの着眼、思想、見識は、ちよつと當時の學者の及ぶ所ぢやないですね。

◎大久保甲東の偉さ

記者 明治の人物で偉いと思はれるのは？

池田 大久保甲東ですね。

記者 どういふ所が？

池田 あの人は、私が父から云はれた、自ら難局を引受けた人である。西郷は維新の際は非常に働いたが、早く郷里に歸つてしまつた。それで明治政府になつてからの面倒な仕事をやつたのは、岩倉、木戸、大久保の諸人でせうが、木戸は豫備になつてゐたし、主としてあの改革を斷行したのは大久保でせう、決斷の點、その他いろいろの點から言つて、大久保が一番傑出して居るのぢやないかといふ氣がします。

記者 お若い時から大久保が好きでしたか。

池田 えい。

記者 これも珍しいですね。若い頃は大概南洲が好きなのですが。

池田 いや、西郷の偉さは私の郷里へも響いてゐて、大變な人氣でした。私は記憶えてをりますが、西南戦争の時に、西郷が勝つたといふと、私共子供だつたが、みんな喜んで旗を振つ

て騒いだものです。子供だものですから深い考へはありません。大きくなつて、何か讀むやうになつてから大久保が好きになつたですね。

記者 甲東のやつた事は地味ですから、案外人には分らない。私共も相當年輩になつてから始めてその眞價が分るやうに思ひます。

池田 年を取つて、だん／＼自分が體驗を経て見ると、他人の苦勞が分るんですね。

◎銀行會社員等の心構

記者 銀行會社員などで、仕事をしてゆく上に大切な心構へといへば何でせう、御體驗の上から。

池田 やはり自分の最大の努力、それ以外にはないでせうね。如何なる小さな事でも、また如何なる低い地位でも、その地位、その仕事に於て自己の最善を盡す。小使をして居れば小使だけの仕事にベストを盡す。それが受付へ行つたら受付の仕事に全力を傾注する、だん／＼上に行けば行くで、それ／＼最大の努力をする——平凡なやうですけども、それ以外には

無いのぢやないですかね。

記者 仕事をやつて行く上に、上の人と意見の違ふやうな場合には、大體どういふ風な心構へをしたらいゝでせう。これは實際問題として、相當深刻に考へさせられる事だらうと思ひますが。

池田 それは私もよく親父から話された事ではありますが、銀行でも會社でも、皆共同の仕事です。一つの緊密な組織になつてゐるんですから、そこで自分一人でやらうといふ考を起すことが、まづ不可ですね。だから、例へば上の人と意見が違ふ場合には「あなたは此の問題について、かう考へて居られるかも知れぬけれども、自分はかう考へて居ります」と、注意の爲に自分の考を述べる。それはいゝ、寧ろしなければならぬ義務ですね。

けれども之を採用すると否とは上の人の権能にあるのだから、採用されないとなつたら、自分は引退るのが當然で、それを飽くまでも我を通すとか、どうするかといふ事は間違である、私は始終父から言はれて居つたが、やはりそれだらうと思ひますね。中には自己の意見が容れられなければ辭職するといふ人もありますが、併し前にもいつた通り、仕事は共同

ですから、さういふ大きな所を自分一人でやつてゐると思ふのが間違ひで、皆でやつてゐるんです。それにはどうしても、さういふ氣持で行かなければ納らんですね。

記者 こちらなんかにはありませんまいが、例へば官廳あたりだと、上の人が變つた爲に、まるで方針が變るやうな事がありますね。

池田 あれは役人だけです。役人は上の方が動けば下まで動く。従つてやり方も自然變つてゆく。私の方などは、上が動いたつて、下まで變るなんといふ事は絶対にありません。つまり商賣の道といふものは、軌道さへ踏んで居れば、誰がやつても同じ事ですからね。又さうなくちやならん譯のものです。——以下省略——(キングより)

369
365

昭和十二年三月十五日 印刷
昭和十二年三月二十日 發行

不許複製

版權		所有
----	--	----

池田成彬縱橫談 定價十錢 (送料二錢)

編者 政治經濟研究會

發行者 東京市中野區大和町三一六

小山一郎

印刷者 東京市小石川區戶崎町九六

中橋昌吉

發行所 東京市中野區大和町三一六
東京パンフレット社
(振替東京四九〇六九番)

特約店

鐵道各驛ホーム内スタンド一手販賣
(東京鐵道局公認)
森田書房

大阪市北區堂島上二ノ廿五
東京市京橋區銀座西二ノ一
新正堂書店
啓德社

終

